

日点委通信

No.36

2020年11月1日発行

日本点字制定130周年にあたって
～11月1日は、日本点字制定記念日です～

会長 渡辺昭一

1890（明治23）年11月1日に制定された日本点字は、今年で130周年となった。この間、日本の点字が、日本の視覚障害者の教育・福祉・職業自立及び文化・芸術活動等を通じて、視覚障害者の自立と社会参加に果たしてきた役割は計り知れない。

日本の点字は、仮名文字体系で構築されたことで、盲教育を通じて、大変多くの視覚障害者に普及することを可能にした。また、現在も発行が継続している「点字毎日」などの新聞・広報誌等を通じて、視覚障害者が情報を入手することに大きく貢献してきた。この他に、世界で初の点字投票を実現し、点字による署名の有効性をも認めさせてきた。

そして、日本点字委員会（日点委と略記）は、「日本点字表記法」及び数学・情報処理・理科の点字表記を決定・普及し、英語をはじめとする外国語や楽譜の点字を日本に取り入れることにより、各種試験の受験を可能にしてきた。その結果、公務員試験や国家資格をはじめとする各種の資格試験等に合格して、社会的に評価を受ける視覚障害者を多く輩出することに繋がった。

今後は、点字を文字として、より明確に位置付けるとともに、点字版選挙公報の法制化、及びデジタル情報のリアルタイム点字表示等を実現していきたい。そして、中途視覚障害者に習得しやすい訓練プログラム・各種ツール等の開発等を進めて、多くの視覚障害者が点字の恩恵に浴し、便利を享受できることを目指すとともに、点字を幅広く国民に普及することを通じて、視覚障害者の諸活動への協力者等を増やすことに繋げていきたい。

関係団体と連携を強めながら、こうした目標に向かって前進できるように、日点委としても全力を尽くすことを強く決意するものである。

*以下は、日点委としての日本の点字130周年記念事業の予定。

● 「日本の点字制定130周年記念講演会」

(関係団体と共催)

11月1日(日) 10:30~12:30

① 「点字は私の父、指点字は私の母」

福島 智氏 (東京大学先端科学技術研究センター・教授)

② 「<暁天の星>から<満天の星>へ

一点字をめぐる不易・流行ー

岸 博実氏 (日本盲教育史研究会事務局長)

● 「2020年度日本点字委員会研究協議会」

同日 13:30~16:00

(会場は、いずれも、すみだ産業会館 9階)

● 「日本の点字」45号において、日本の点字制定

130周年を記念する特集を企画。これに伴い、広く原稿の応募を求めた。



日本点字制定130周年と日点委の歩み

副会長 金子昭

日点委では、このたび『日本点字表記法 2018年版』を編集・発行した。日点委としては5冊目の「表記法」である。ところで、この「表記法」は先駆的業績のないところに忽然とできたわけではない。それでは、そのルーツは何なのだろうか。

周知のように1890(明治23)年11月1日、東京盲啞学校の第4回点字撰定会において、石川倉次案が採択されたことが、日本点字の制定である。それから130年になる。同年12月27日、同校は、採択された点字を「日本訓盲字」として印刷し、啓蒙・普及を目的として、京都市立盲啞院、その他の盲学校に配布した。50音、濁音、数字などが掲載されている。

少し^{さかのぼ}遡るが、同年10月18日の第3回点字撰定会において、次のことが決められている。①後詞^{こうし}の「は・へ」は発音通り「ワ・エ」を用いる、②後詞「を」は「ヲ」

を用いる、③語と語の間は一目離す、④句と句の間は二目離す。) このうち①②は、このとき表音的仮名遣いが確立されたことを、③④は、分かち書きの原則が定められたことを示している。これが今日にまで及んでいるといえる。つまり「表記法」の「第1章 点字の記号」は、「日本訓盲字」の点字一覧表に、「第2章 語の書き表し方」は、第3回撰定会の①②に、「第3章 分かち書きと切れ続き」は、同撰定会の③④に、その源流を見ることができるのではないか。日点委の目的は「日本における点字表記法の決定を行い、その普及・徹底を図る」(会則)ことにある。130年前の人たちも、点字表記法を決定し、その啓蒙・普及の目的で「日本訓盲字」を配布した。こう考えると、私たちはその共通点の多いことに、点字翻案当時の席に連なっている思いさえするのである。

日本点字制定130周年に当たり、当時に思いを馳せるとき、私たちに託された責任の重さに身の引き締まる思いがする。これからの日点委の歩みも、130年前に、「よりよい点字を遺そう」と奮起した先達の熱意、息吹、興奮を忘れずに進んでいきたいものと願っている。



第56回総会（書面・電磁的方法によって表決）報告

当初5月30日・31日に予定していた「研究協議会並びに第56回総会」の横浜あゆみ荘での開催を、感染拡大防止の観点から中止し、第56回総会審議事項を書面等によって行うこと、および委員4分の3以上の賛成によって決定することの可否について、メールによって委員に諮った。

その結果として、① 2019年度事業報告および決算、② 2020年度事業計画および予算について、書面または電磁的方法によって表決し、全委員（25名）からの承認を得ることができたため、6月13日に総会で決定したものとみなした。

主な承認事項

(1) 事業報告関係

- ① 『日本点字表記法 2018年版』電子版について、11月1日に点字版はブレイルメモのみで閲覧可能な形式で、墨字版はコピーや印刷機能を制限して、購入者名の入ったPDF形式での販売を開始した。
- ② 『むつぼしの輝きを求めて ―日本点字委員会50年のあゆみ 1966～2016』を、

11月1日に発行した。点字版はデータをホームページに掲載した。墨字版は希望者に販売している。

- ③『数学・情報処理点字表記解説 2019年版』について、墨字版・点字版を同時発売した。
- ④『試験問題の点字表記』について、渡辺委員・長岡委員・和田事務局長により、各種試験問題の点字版の収集やデータ化を進めると共に、改訂すべき点について、意見交換を行った。
- ⑤「医学用語の点字表記」の見直しについて、渡辺委員・岩屋委員・白井委員・小野事務局員・鈴事務局員によって協議を行い、素案を事務局会議で検討した。

(2) 事業計画関係

- ①『理科点字表記解説 2019年版』を発売する。
- ②『試験問題の点字表記 第2版』（2007年発行）の改訂版について、検討委員会の進捗状況を踏まえて発行計画を立案する。
- ③日本の点字制定130周年の記念すべき年にあたり、イベント等の企画を検討する。
- ④「医学用語の点字表記」（2011年発表）について、『日本点字表記法2018年版』の内容に沿った見直しを行い、早期に改訂案をまとめる。
- ⑤社会情勢および必要性に応じて、年度内に研究協議会に相当する研究協議等を行う。

※委員の交代について

盲教育界代表委員、中村恒子氏（山形県立山形盲学校）から渡邊寛子氏（福島県立視覚支援学校）に交代した。

日本点字委員会

〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号 日本点字図書館内
電話 03(3209)0671 FAX 03(3209)0672 振替口座 00100-1-42820
ホームページ <http://www.braille.jp/>